

ちょっとお茶にしませんか

第10話

鉄好人海外行

いろんな国の世界地図

Down Under MAP OF THE WORLD

山本誠志

Masashi Yamamoto

日科情報株式会社 (元) 住友金属工業 (株)

海外で、個人の家庭や事務所を訪問することもあります。そこでは、国旗や元首の写真が飾ってあったりします。世界地図を目にすることもあります。今回は地図のお話です。

旅行をするときにお世話になるのが地図です。でもここで取り上げるのは「世界地図」です。この世界地図がおもしろいのです。世界地図そのものの代わりに、世界地図を図柄にした記念切手を選んでみました。

■私たち日本人の世界地図では、日本が中央に、アメリカは右手に、ヨーロッパは左手にあります。どちらもはるか遠い国に感じます。

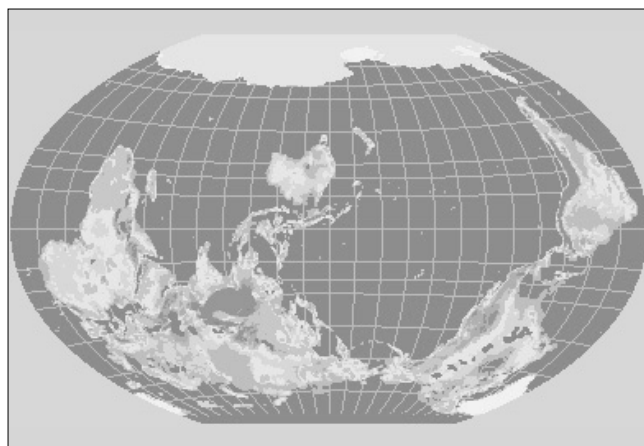
■カナダの世界地図はどうか。中央にアメリカ大陸が位置しています。右が大西洋で、左が太平洋です。アジア大陸は左右に分断されています。アメリカとヨーロッパは以外に近いと思いませんか。

■ヨーロッパの世界地図では、ユーラシア大陸が中央に位置し、日本はいわゆる極東(ファー・イースト)にあります。まさに「日の出づる国」です。

このように、どこの国でも世界地図は自分の国を中央に配置して作られているようですね。ガイドブックやカーナビのような局所的な地図では味わえない全体観が感じられます。その国々での世界地図をみることによって、その国の場所的位置だけでなく、その国が置かれた政治的、経済的あるいは文化的な状況が理解できるからです。



■もっと驚いたことがありました。オーストラリアに行ったときに壁に貼ってある地図をみたときです。南極と北極が逆さまなのです。机の上に広げてあれば、きっと気付かなかったでしょう。実に異様に感じました。この地球の世界地図とは思われませんでした。机の上に広げた地図を反対方法からみることはありますが、皆さんも一度、世界地図を壁に上下逆さまに貼ってじっくり眺めてみて下さい。この感覚を実感できます。「逆さま世界地図」は日本でも入手可能です。



世界史や地理の授業でも、これらの世界地図を使ってみるのもおもしろいのではないのでしょうか。各国のおかれた状況を理解するのに適していると思います。地球儀でみる世界とは異なった距離感・方向性を感じることができます。局所的に詳細な地図は日常生活や旅行には結構便利ですが、海外旅行の際には、行った先でのその国の世界地図をながめてみるのも結構おもしろいものです。でも使い慣れていないので、みるのに時間も掛かり、錯覚を起こすこともありますので、くれぐれもご注意の程。

ここで、ひとつ提案があります。海外線の搭乗の際に、地球儀の代わりに世界地図を印刷した「紙風船」のサービスはいかがでしょうか。その「紙風船」をさっそく膨らませて、これから向かう地へ思いに馳せるかもしれませんね。折り畳めばポケットにも入ります。きっと帰国まで何度も膨らませてみるのではないのでしょうか。帰国後も机の引出しからときどき取り出しては、なつかしく思い出すかも。「紙風船」は「折り紙」と同じように、日本の伝統文化です。外国人から「世界地図の紙風船」をゆずってくれと無心されるかもね。

(切手については(財団法人)日本郵趣協会会員・登坂宏氏に協力いただきました。)